

不登校の子どもとの出会いは教師としての成長のチャンス

～子どもにとって学級担任は唯一無二の存在～

今年、クラスに不登校の子どもがいた学級担任の先生へ

昨年4月に自分のクラスに不登校の子どもがいるとわかって、どんなことを考えましたか？

「困ったな。どうしよう」と不安に思ったでしょうか？それとも「自分にできることは何か」と前向きに考えたでしょうか？1年たって、その子どもはどのような成長を見せてくれましたか？



家庭訪問をしたけど会えなかったの、次第に足が遠のいてしまい...どう関わっていいかわからないまま、1年が過ぎてしまい、子どもに申し訳ない...

- 状況に変化が見られず、悩んでいませんか？
- 不登校の子どもに対応に、苦手意識やネガティブな感情を抱いてしまいませんか？



不登校の子どもの気持ちを「わかろう」とする教師になるためのはじめの一步

「なおそうとするな わかろうとせよ」日本の心理カウンセラーの先駆者、友田不二男先生の言葉

「なおそう」と過度に登校刺激すると、子どもは心を閉ざしがちになり、「わかる」あるいは「わかった」という態度で接すると、子どもは今以上心を開かないものです。

「わかろう」とすることで、子どもが「この先生は私の味方だ」と感じ、不思議と心を開き始めることがあります。「わかろう」としてくれる人がそばにいるだけで、気持ちがホッとすることはできないでしょうか。



学級担任が決まり、クラスの子どもの顔ぶれが決まったら

① まずは情報収集

クラスにどんな子どもがいるのか情報収集をします。
(誰に聞けばわかるかを考えるのも大事な要素)

Aさんのことは〇〇先生に、Bさんのことは養護教諭に聞こう



② 助けられ上手な先生に

自分(学級担任)を支えてくれる仲間は校内外にいます。一緒に家庭訪問に行ってくれそうな先生やアドバイスをもらえそうな人を見つけましょう。



不登校支援ハンドブック p77

コラム「『チーム支援』で学校がひとつに」はもう読まれましたか？困ったときこそ、まずは相談です。

③ 行動することで「変化を起こす」～春休みがチャンス！～

自己紹介



不登校支援ハンドブック p183
「プロフィールカード」

入学式や始業式のシミュレーション

可能であれば学校へ誘う(子どもの気持ちを優先)

子どもの状態や気持ちを知る



不登校支援ハンドブック p192・193
「家庭訪問・別室活用オーダーシート」